

# TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース eyes 118

—— いわいとしお × 東京都写真美術館

—— 光と動きの100かいたでのいえー 19世紀の映像装置とメディアアートをつなぐ

—— アレック・ソンス 部屋についての部屋 —— 現在地のまなざし 日本の新進作家 vol.21

いわいとしお × 東京都写真美術館

## 光と動きの100かいだてのいえ

— 19世紀の映像装置とメディアアートをつなぐ 出品作家、岩井俊雄さんに聞く



本展出品作家の岩井俊雄さんは、絵本作家として、メディアアーティストとして広く知られる存在です。今回はその両側面をミックスし、20数年ぶりに復活した〈時間層〉シリーズをはじめとするメディアアート作品を多数出品するほか、絵本の原画も展示します。そして本展の核となるのは、当館がコレクションする19世紀の映像装置の数々です。装置や発明者たちの魅力を、イラストやレプリカを交えて分かりやすく紹介します。岩井さんに、展覧会の構想や、そこに込めた思いを聞きました。

## 原点を学び直し、次の世代にその魅力を伝えたい

— 本展の出発点と言える、19世紀の映像装置とご自身の関係について教えていただけますか。

僕のメディアアート作品《立体ゾートロープ》や〈時間層〉シリーズなどの多くの作品は、19世紀の映像装置を参照して生まれたものです。僕がこ

もの頃に使っていたパラパラマンガも、実は19世紀に生まれた発明のひとつでした。そうした強い影響を受けた19世紀の映像装置と、僕のメディアアート作品と一緒に展示することは長年の願いでした。この企画を通して、改めて僕自身が原点を学び直し、次の世代にその魅力を伝えられたらと思っています。

また、今回は絵本作家とメディアアーティスト、両方を融合した世界がくれたらと思っています。そこでまず描き下ろしたのが、僕の絵本シリーズ〈100かいだてのいえ〉になぞらえたメインビジュ

アル《映像の夜明け100かいだてのいえ》です。

## 絵本作家として培ったスキルと想像力を活かして

触れない、動かせない貴重なコレクションをどうやって身近に感じてもらうか。イラストを描くモチベーションの一つには、コレクションと見る人との距離を縮めたい、という思いがありました。

19世紀の映像装置を、発明者自身が回したり覗いたりしている姿は、今撮ろうと思っても絶対に撮れない光景ですし、わずかな資料から想像するし



1834年にウィリアム・G・ホーナーが発明したゾートロープ 東京都写真美術館蔵(左)と、岩井が1988年に制作した作品《立体ゾートロープ》展示風景(2022年)(右)



1、表紙図版)本展のメインビジュアルとして岩井が描き下ろした《映像の夜明け100かいだてのいえ》©Iwai Toshio



岩井俊雄(いわいとしお) Iwai Toshio

メディアアーティスト・絵本作家。1962年愛知県生まれ。筑波大学大学院芸術研究科修了。1985年《時間層II》で第17回現代日本美術展大賞を最年少受賞。その後テレビ番組やゲームソフト制作、電子楽器開発など多岐に渡る活動を展開。2008年にスタートした絵本シリーズ〈100かいだてのいえ〉をはじめ、絵本作家としても広く知られる。



1833年に「ファンタスコープ」の名で販売されたプラトーによるフェナキスティスコープ(左)と、1985年に岩井が制作した《時間層II》(右)いずれも東京都写真美術館蔵

がありません。でもそう考えると、絵本でいろいろな場面を空想して描くことと、遠い昔を想像して描くことは似ていて、絵本づくりで培ったスキルや想像力が存分に活かせる部分だと思いました。

写真も動く映像も、それらを投影する技術も、追いかけてこするように脈々とつながっていて、調べると発明者同士の交友関係も見えてきてすごく面白いんです。僕が面白がって描いたイラストが、過去と今を橋渡しして、当時の雰囲気を感じてもらえたら嬉しいですね。

### 19世紀の光景に映像の原点がある

19世紀の映像装置について改めて調べるなかで、映像のはじまりだと思っていた発明には、さらにそのきっかけとなった気づきがあることを知りました。それはもはや映像ですらなく、当時の日常のささいな出来事で、例えば、ロジェの車輪のイリュージョンは、柵越しに回転する馬車の車輪が歪んで見えたことがきっかけになっています。馬車が走るイギリスの光景がなかったらあの発見はなかったでしょう。

まだ電気も普及していなかった時代ですから、当時の映像を見るための明かりはランプやろうそ

くの炎です。火には煙や匂いも伴います。そんな環境で、装置に像が浮かびあがる。すごく身体的な体験ですよ。メディアアートは電気とコンピュータによって発展していった分野ですが、それらを使わなくても、こんな面白い体験ができていたのか、とドキドキワクワクします。19世紀にあったのは今よりもっと人間の本质に近い世界なのだと思います。

### 絵本作家としての一推しはレイノー、親近感を抱くのはプラトー

— 19世紀の映像装置の発明者たちのなかで、岩井さんの一推しは？

あえて選ぶなら、エミール・レイノーとジョゼフ・プラトーですね。絵本作家の視点で見ると、レイノーが描いた絵や装置のデザインは素晴らしいと思います。

プラトーのすごさは、今回調査していく中で改めて再認識しました。研究者として現象を根本までとことん追求し、そこからさまざまな応用をしています。僕は到底及びませんが、彼の発明を検証する中で親近感を感じたところもあります。「あの実験の次に試すのはこれなんじゃないか」と想像してみたら、彼の残した実験結果にたどり着けたとい

うこともありました。それに、彼がフェナキスティスコープを発明して最初期に発表した図柄は、人形がぐるっと回る絵なんです。《時間層II》に似ていると思いませんか。

### 《時間層II》を東京都写真美術館がコレクションしていることの意義

— 今回、当館がコレクションする岩井さんの作品も多数出品しますね。

メディアアート作品は所蔵のハードルが高いのですが、東京都写真美術館には僕の作品がいくつもコレクションされています。今回展示する《時間層II》もその一つです。この作品は美術館にコレクションされていることで、常に貸し出し可能な状態を維持できました。自分で持っていたら、同シリーズのほかの作品のようになかなか展示できない状態になっていたと思います。昨年、シビック・クリエイティブ・ベース東京[CCBT]で実施した岩井俊雄ディレクション「メディアアート・スタディーズ2023:眼と遊ぶ」で、〈時間層〉シリーズの残りの3作品を復活させ、今回シリーズ全作を展示できることになりました。僕自身、メディアアート作品の保存や再生には取り組み始めたばかりですが、分野全体が抱える問題として、作家や美術館、皆で考えていく必要があると思っています。

同じくコレクションの2点、《Floating Music》(2001年)と《光の驚き盤》(2003年)は、21年ぶりの展示です。先日、無事に動くことが確認できてホッとしています。今回をきっかけに、また展示の機会が増えると嬉しいですね。

### 復活した作品を文脈のなかで見せる

CCBTでは、作品を復活させることそのものを大きな目的の一つとしましたが、今回は次のステップとして、復活した作品を文脈のなかで見せることが大事だと思っています。作品が映像装置の歴史と接続されることで、メディアアートの意義や位置付

けがより分かりやすく、明確になることを期待しています。歴史のメインストリームとしては、19世紀の映像装置の先には映画やテレビなどがあるわけですが、それだけではないところに焦点を当てたいのです。僕のメディアアート作品もその一つとして紹介することで、「なるほど、こういうやり方があったか」と若いクリエイターの方々の刺激になったらと思っています。

### 巨大!? かがみの100かいだてのいえ

— 新作について教えていただけますか。

会場に入ってすぐのところにある《巨大かがみの100かいだてのいえ》は、以前制作した《かがみの100かいだてのいえ》の中に自分が入ってみた



《巨大かがみの100かいだてのいえ》2024年 撮影:新井孝明



《かがみの100かいだてのいえ》2022年 展示風景(2022年)  
撮影：齋藤さだむ

いと思って構想したものです。天面と床面が合わせ鏡になっていて、覗き込むと空間が上下に無限につながって見える仕掛けで、フォトスポットとしても楽しめます。ほかにも、僕のイラストは展示のいろいろなところに登場するので、絵本ファンの方々にも楽しんでもらいたいですね。

### 間をつなぎ、伝えるための作品

昨年から今年にかけて制作した《花のおどろきばん》や《おどろきばんテーブル》も展示しますが、それらは作品でありつつも、参加者のためのツールのような位置づけのものです。今は、かつてのように完成度の高い一つの作品をつくり上げるよりも、展示会に必要な役割を考えて、パーツをつかってはめていくような考え方で新しいものをつくっています。作品然としていることよりも、そこか

ら何かを読み取ることができたり、見る人が自分で試すことができたりといったことを大事に考えるようになりました。それは父親になり、絵本作家をしながら年齢を重ねることで起きた変化だと思います。

初めて絵本をつくったとき、僕は読み物として楽しんでもらうことだけを考えていましたが、出版してみたら、刺激を受けた子どもたちが自分で100かいだてのいえを描きはじめてくれました。面白いものを見ると、子どもたちは自分でもやってみたくなる。その気持ちを受け止められる余白のある展示会にしたいですね。

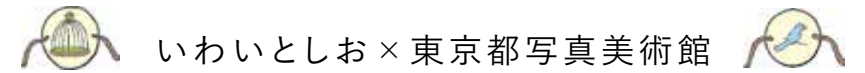
(インタビュー・構成 坂本のどか)



エミール・レイノーによるブラクシノスコープ・テアトル  
19世紀 東京都写真美術館蔵



《時間層Ⅲ》1989年 作家蔵 撮影：新井孝明



## 光と動きの100かいだてのいえ — 19世紀の映像装置とメディアアートをつなぐ

Iwai Toshio × Tokyo Photographic Art Museum presents  
The Light and Movement House with 100 Stories  
— Connecting Visual Devices in the 19th Century and Media Art

B1F 2024.7.30|火| - 11.3|日・祝|

人気絵本『100かいだてのいえ』の作者いわいとしおは、日本を代表するメディアアーティスト岩井俊雄でもあります。岩井は、幼少からアニメーションに強い興味を持ち、パラパラマンガや驚き盤を現代のテクノロジーによって進化させた作品<時間層>シリーズによって、独自のメディアアートを確立しました。この展示会では、岩井のメディアアートと、その原点となる19世紀の映像装置をつなぎ、光と動きが生み出す視覚の面白さと、それらを作り上げた科学者や芸術家たちの飽くなき探求心を解き明かします。



《映像装置としてのピアノ》1995年 作家蔵 撮影：新井孝明



展示風景 撮影：新井孝明

▶担当学芸員によるギャラリートーク(手話通訳付き)  
10.11(金) 14:00- ※当日有効の本展チケットまたは無料対象の方は証明書等のご提示が必要です。

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり  
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。  
【主催】東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社 【協力】株式会社偕成社  
※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



# アレック・ソス 部屋についての部屋

Alec Soth: A Room of Rooms

2F 2024.10.10|木| - 2025.1.19|日|

アメリカ・ミネソタ州生まれの写真家アレック・ソス(1969-)は、国際的な写真家集団、マグナム・フォトの正会員であり、生まれ育ったアメリカ中西部などを題材とした、写真で物語を紡ぎだすような作品で、世界的に高い評価を受けてきました。

本展「部屋についての部屋(A Room of Rooms)」には、初めて出版されたシリーズであり、初期を代表する〈Sleeping by the Mississippi〉から、今秋刊行予定の最新作〈Advice for Young Artists〉まで出品されます。30年に及ぶソスの歩みを単に振り返るのではなく、選ばれた出品作品のほぼすべてが屋内で撮影されているように、「部屋」をテーマにこれまでのソスの作品を編み直す、当館独自の試みとなります。

出品作品の一つに〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉というシリーズがあります。アメリカの詩人、ウォレス・ステイヴンズ(1879-1955)の詩「灰色の部屋(Gray Room)」の一節からタイトルがとられた本作は、2019年に同名の写真集としてまとめられ、ソスのキャリアにおいて一つの転換点となっています。初期からソスはアメリカ国内を車で旅し、風景や出会った人々を大判カメラで撮影してきましたが、本作ではそうしたロードトリップのスタイルではなく、舞踏家・振付家のアンナ・ハルプリン(1920-2021)や、小説家のハニヤ・ヤナギハラ(1974-)など世界各地に様々な人々を訪ね、その人が日々を過ごす部屋の中で、ポートレートや個人的な持ち物を撮影しています。すなわち、部屋とそこに暮らす人をテーマとするこのシリーズが、本展を生み出すきっかけとなりました。

〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉では、静謐な空間で被写体から醸し出さ



れる親密さが大きな魅力となっています。「どれだけ激しくあなたの心臓が鼓動しているのかわっている」というタイトルは、その瞬間を写し留めたソスの胸中だけではなく、展示室という一つの部屋の中で、作品と対峙するわたしたちの心の内までをも言い表しているかのようです。

「ポートレートや風景、静物などを定期的に撮影しているが、最も親しみを感じるのは室内の写真だ」と作家は述べています。ソスの作品に登場する様々な部屋や、その空間にたたくむ人々に意識を向けることで、果たして何が見えてくるのか。展覧会と写真集共に多くの支持を得る作家の表現の魅力を探ります。



- | 関連イベント
- ▶アレック・ソス アーティスト・トーク  
10.12(土) 14:00-16:00  
[会場] 東京都写真美術館 1階ホール  
[定員] 190名(整理番号順入場/自由席/逐次通訳付)  
[参加費] 無料 ※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します
  - ▶担当学芸員によるギャラリートーク  
10.18(金) 14:00-  
12.6(金) 14:00-(手話通訳付)  
1.10(金) 14:00-(手話通訳付)  
※当日有効の本展チケットまたは無料対象の方は証明書等のご提示が必要です。

- 1) 〈Anna, Kentfield, California〉〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉より 2017年 東京都写真美術館蔵
- 2) 〈Untitled 07〉〈Dog Days, Bogotá〉より 2003年 東京都写真美術館蔵
- 3) 〈Still Life II〉〈Advice for Young Artists〉より 2024年 作家蔵
- 4) 〈Bil, Sandusky, Ohio〉〈Songbook〉より 2012年 東京都写真美術館蔵
- 5) 〈Crystal, Easter, New Orleans, Louisiana〉〈Sleeping by the Mississippi〉より 2002年 作家蔵
- 6) 〈Two Towels〉〈Niagara〉より 2004年 作家蔵  
図版はすべて©Alec Soth



【観覧料】一般800円 ほか 各種割引あり ※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。  
【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 【協賛】東京都写真美術館支援会員

※事業は諸般の事情により変更することがございます。  
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



# 現在地のまなざし 日本の新進作家 vol.21

The Gaze of the Present: Contemporary Japanese Photography vol.21

3F 2024.10.17|木| - 2025.1.19|日|

東京都写真美術館が2002年より開催している「日本の新進作家」展は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘すると共に、新たな創造活動を紹介するグループ展です。表現する手法として写真を選びとり、しなやかなまなざしで現実をとらえる作家たちの作品は、現在を生きる私たちにいつもとはすこし異なる角度から世界を見る視点を与えてくれます。5名の作家たちの多様な試みを通して、今日の、そしてこれからの写真の可能性を改めて見つめる契機となることでしょう。

かんのさゆり

Kanno Sayuri

かんのさゆり〈New Standard Landscape〉より 2016年 -  
©Sayuri Kanno



大田黒衣美

Otaguro Emi

大田黒衣美〈sun bath〉2023年  
©Emi Otaguro



原田裕規〈One Million Seeings〉2019年  
©Yuki Harada

原田裕規

Harada Yuki



金川晋吾〈father〉より 2009年  
©Shingo Kanagawa

金川晋吾

Kanagawa Shingo

千賀健史

Chiga Kenji

千賀健史〈HIJACK GENI〉より 2021年  
©Kenji Chiga

関連イベント

担当学芸員によるギャラリートークのほか、関連イベントを予定しています。詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり

※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞 【協賛】東京都写真美術館支援会員

※P.9-10の図版はすべて作家蔵

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



# TOPコレクション 見ることの重奏

TOP Collection: The Resonance of Seeing

3F 2024.7.18|木| - 10.6|日|

東京都写真美術館では約37,000点を超える収蔵作品のなかから、テーマに沿って選び抜かれた名品を定期的で紹介しています。本展覧会では、当館の所蔵する写真作品を中心に、「見ることの重奏」をテーマとして、見るということを開き直す試みを行います。

ひとつの作品に内在する、作者や批評家、鑑賞者など、さまざまなまなざし。たとえば、写真家は制作のプロセスにおいて、ある対象を独自の方法で見つめ、それをフレーム化します。また批評家は、自身の作品の見方を言語化することで、作品を評価し、価値づけます。そして鑑賞者はそこに写されている事象と自身の個人的な経験や記憶を結び付け、その関係性のなかで作品を見ることができま

す。このように、イメージの作り手、語り手、受け手など、その立ち位置によって、写真を見るという行為は多様なものとなります。そして見る経験は、イメージの表面上には見えない、歴史的な視点と豊かな想像力、自身の思考が重なり合い、それらを共鳴させる行為とも言えるのではないのでしょうか。

本展では、これまで語られてきた作品をめぐる言葉とともに、時代も地域も異なるコレクション100点が一堂に展示されます。出品作品を通して、写真を見るということについて思考をめぐらせる場となれば幸いです。

## 出品作家

ベレニス・アボット/ウジェーヌ・アジェ/アンナ・アトキンス/チェン・ウェイ/スコット・ハイド/アンドレ・ケルテス/ウィリアム・クライン/奈良原一高/マン・レイ/杉浦邦恵/モーリス・タバール/寺田真由美/マイナー・ホワイト/山崎博

1) 奈良原一高 (デュシャン/大ガラス)より 1973年 東京都写真美術館蔵 ©Narahara Ikko Archives

2) 寺田真由美 《curtain 010402a》2001年 鎌倉画廊蔵 ©Terada Mayumi, courtesy of Kamakura Gallery

## 関連イベント

▶担当学芸員によるギャラリートーク (手話通訳付き)

9.20(金) 14:00-

※当日有効の本展チケットまたは無料対象の方は証明書等のご提示が必要です。

【観覧料】 一般700円 ほか 各種割引あり

※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。

【主催】東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 【後援】J-WAVE 81.3FM



※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



# 今森光彦 につぼんの里山

Imamori Mitsuhiko Satoyama: Harmony with Nature and Resilience in Japan

2F 2024.6.20|木| - 9.29|日|

世界の熱帯雨林、砂漠から、国内の自然環境まで、自然と人の関わりをテーマに美しい映像と親しみやすい文章で伝えつづける今森光彦。幼いころから昆虫の生態と美しさに魅了された今森は、世界中の昆虫を求めて精力的に取材活動をつづけ、既成の生態写真にとらわれない独特な自然観に基づく作品は、内外で高い評価を得ています。また、故郷である琵琶湖周辺を中心とした「里山」と呼ばれる空間を見つめつづけ、自然と人の絶妙なバランスで生み出される里山を映像化してきました。本展覧会は今森が出会った日本全国200か所以上の里山の中から、厳選した作品を紹介するシリーズ最大規模の展覧会です。

《カタクリにやって来たギフチョウ》山形県鶴岡市 2010年

【観覧料】 一般700円 ほか 各種割引あり

※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

【協賛】(株)ニコン/(株)ニコンイメージングジャパン/東京都写真美術館支援会員



※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



# 「巨匠が撮った高峰秀子」写真展

～土門 拳、木村伊兵衛、林 忠彦、秋山庄太郎、大竹省二、早田雄二、操上和美、立木義浩～

Photography Exhibition "Takamine Hideko Photographed by Masters"

B1F 2024.11.9|土| - 12.8|日|

操上和美をはじめ、写真界に大きな足跡を残した土門拳、木村伊兵衛、林忠彦、秋山庄太郎、大竹省二、早田雄二、立木義浩。名だたる写真界の巨匠が、高峰秀子という一人の女優をいかにとらえたか。

それぞれに才能きらめく写真家たちの独自の眼差しで見つめた高峰秀子は、同じ被写体でありながら、明らかに違う佇まいと表情を見せています。

そして、レンズを覗いている写真家一人一人が持つ力、言ってみれば、撮る側と撮られる側の覚悟、レンズを通した人間対人間の闘いとも言える熱い瞬間を私たちに伝えてくれます。



© 大竹省二 1960年撮影

【観覧料】 一般1,200円 ほか 各種割引あり

【主催】高峰秀子生誕100年プロジェクト実行委員会 【共催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 【後援】東京都/港区/東宝株式会社/松竹株式会社/株式会社KADOKAWA/一般社団法人日本映画製作者連盟/公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団

〈お問い合わせ〉 高峰秀子生誕100年プロジェクト実行委員会  
TEL:0879-82-7000

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



# 支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、  
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただいています。

## 《特別賛助会員》

- キヤノン(株)
- 全日本空輸(株)
- (株)ニコン

## 《賛助会員》

- キヤノンマーケティングジャパン(株)
- (株)資生堂
- 大日本印刷(株)
- 東急建設(株)
- TOPPANホールディングス(株)
- 富士フイルム(株)

## 《特別支援会員》

- アサヒグループホールディングス(株)
- サッポロ不動産開発(株)
- サッポロホールディングス(株)
- ビクテ・ジャパン(株)
- リコーイメージング(株)

## 《支援会員》

- (株)I&S BBDO
- あいおいニッセイ同和損害保険(株)
- (株)アイネスト
- アイン(株)
- アオイネオン(株)
- (株)アクト・テクニカルサポート
- (株)浅沼商会
- (株)朝日工業社
- 朝日新聞社
- (株)朝日新聞出版
- 朝日生命保険(相)
- (有)アスペン/POLARIS
- (株)アフロ
- (株)アマナ
- (株)岩波書店
- (株)潮出版社
- (株)栄光社
- (株)エージーピー
- (一財)AVCC・霞が関ナレッジスクエア(KK<sup>2</sup>)
- SMBC日興証券(株)
- SB C&S(株)
- (株)NHKエデュケーショナル
- (株)NHKエンタープライズ
- (株)NHK出版
- (株)NHKテクノロジーズ
- ENEOSホールディングス(株)

- エルメス財団
- OMデジタルソリューションズ(株)
- カールツァイス(株)
- 花王(株)
- 鹿島建設(株)
- (株)KADOKAWA
- カトーレック(株)
- 神奈川新聞社
- カメラショップ(株)
- カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
- (株)キクチ科学研究所
- (株)キタムラ
- キョーマン(株)
- (株)紀伊國屋書店
- ギャラリー小柳
- 共同印刷(株)
- (一社)共同通信社
- 空港施設(株)
- (株)久米設計
- グローリー(株)
- (株)ケー・アンド・エル
- ゲッティイメージズジャパン(株)
- 興亜硝子(株)
- (株)弘亜社
- (株)公栄社
- (株)廣済堂
- (株)講談社
- (株)光文社
- (株)国書刊行会
- (株)コスモスインターナショナル
- 小山登美夫ギャラリー(株)
- 佐川印刷(株)
- 三愛オプリー(株)
- 産経新聞社
- サンアリーホールディングス(株)
- (株)ジェイアール東日本企画
- JSR(株)
- (株)JTBB
- (株)シグマ
- (株)実業之日本社
- 信濃毎日新聞社
- 清水建設(株)
- (株)写真弘社
- 写真の学校/東京写真学園
- チャンネル(同)
- (株)NHKエンタープライズ
- シュッピン(株)
- (株)小学館
- 松竹(株)

- 信越化学工業(株)
- (株)新潮社
- (株)晋遊舎
- (株)スタジオエムジー
- (株)スタジオジブリ
- (株)SUBARU
- 住友生命保険(相)
- (株)住友倉庫
- (株)生活の友社
- セイコグループ(株)
- 双日(株)
- ソニーグループ(株)
- 損害保険ジャパン(株)
- 第一生命保険(株)
- 台新国際商業銀行
- 大和証券(株)
- (有)タカ・イシイギャラリー
- (株)高島屋
- (株)竹中工務店
- (株)タニタ
- (株)タムロン
- (株)丹青社
- (株)中央論新社
- 中外製薬(株)
- (株)TBSテレビ
- (株)テレビ朝日
- (株)テレビ東京
- (株)電通
- 東亜建設工業(株)
- 東映(株)
- (株)東京印書館
- 東京工科大学/日本工学院
- 東京工芸大学
- 東京新聞・中日新聞社
- (株)東京スタデオ
- 東京造形大学
- 東京総合写真専門学校
- (株)東京ダイケンビルサービス
- 東京建物(株)
- 東京地下鉄(株)
- 東京テアトル(株)
- 東京都競馬(株)
- 東京ニューズ通信社
- 専門学校東京ビジュアル
- アーツ・アカデミー
- (株)東京美術倶楽部
- 東京メトロポリタンテレビジョン(株)
- (株)東芝
- 東宝(株)
- (株)東北新社

- (株)東洋経済新報社
- (株)徳間書店
- 戸田建設(株)
- (株)トロンマネージメント
- (株)ニコンイメージングジャパン
- 日油(株)
- 日活(株)
- 日機装(株)
- 日光ケミカルズ(株)
- 日本空港ビルデング(株)
- 日本経済新聞社
- (株)日本廣告社
- (公社)日本広告写真家協会
- 日本写真印刷コミュニケーショングループ(株)
- (公社)日本写真家協会
- (公社)日本写真協会
- 日本写真芸術専門学校
- 日本生命保険(相)
- 日本大学芸術学部
- (株)日本デザインセンター
- (株)ニッポン放送
- 日本レコードマネジメント(株)
- 日本ロレックス(株)
- 野村證券(株)
- (株)博報堂
- (株)博報堂DYメディアパートナーズ
- (株)博報堂プロダクツ
- (株)ハーツ
- パナソニックホールディングス(株)
- (株)パラゴン
- (株)バンダイナムコフィルムワークス
- ぴあ(株)
- 北海道 写真の町東川町
- (株)美術出版社
- (株)ビックカメラ
- (株)ピラミッドフィルム
- (株)ファーストリテイリング
- (株)フェドラ
- (株)富士通パーソナルズ
- (株)フジテレビジョン
- (株)フジヤカメラ店
- 芙蓉総合リース(株)
- (株)フレームマン
- プロフォト(株)
- (株)文化工房
- (株)文藝春秋
- 北海道新聞社
- (株)ホテルオークラ東京

- 本田技研工業(株)
- 毎日新聞社
- 丸善雄松堂(株)
- マルミ光機(株)
- (株)マンダム
- (株)みずほ銀行
- 三井住友海上火災保険(株)
- 三井倉庫ホールディングス(株)
- 三井不動産(株)
- 三菱製紙(株)
- 三菱電機(株)
- 明治安田生命保険(相)
- 森ビル(株)
- ヤマト運輸(株)
- (株)吉野工業所
- (株)ヨドバシカメラ
- 読売新聞社
- ライオン(株)
- ライカカメラジャパン(株)
- (株)リビタ
- (株)良品計画
- (株)ロボット
- (株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
- (株)ワコール

支援会員の  
詳細は  
こちら▼



(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人  
(一財)=一般財団法人

(令和6年8月現在・五十音順)

2F SHOP  
ミュージアム・  
ショップ

NADIFT  
BAITEN

展示会の開催に合わせて、品揃えがガラリと変わるミュージアム・ショップ。カメラ・オブスクラとは「暗い部屋」を意味する言葉であり、小さな穴を通る光によって投影像が現れる装置です。3Dプリンターで制作された「new moon screen2」は、カメラ・オブスクラの仕組みそのままに、手軽に身の回りの風景を観察できるものとなっています。晴れた日はこのアイテムを持って、新しい風景を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

new moon screen2 6,600円(税込)



詳細  
ページは  
こちら▼



【営業時間】10:00-18:00(木・金は20:00まで)

【TEL】03-6447-7684

【定休日】美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。

1F CAFE  
カフェ

フロムトップ

台湾で人気の屋台飯、ルーロー飯をワンプレートをご用意しています。カラーゲンたっぷりの皮付きの豚肉にこんにやくを加えた食感楽しいルーロー飯に色鮮やかな野菜を添えました。コーヒーまたは日本茶付き1,500円(税込)。



詳細  
ページは  
こちら▼



【営業時間】10:00-18:00(木・金は20:00まで)

【TEL】070-8591-3730

【定休日】美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。



# SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、  
こちら▶



|           | 3F   | 2F  | B1F   | 1F  |
|-----------|--|---|---|---|
| 2024<br>9 | TOPコレクション<br>見ることの重奏 (収)<br>7.18(木) - 10.6(日)                | 今森光彦<br>にっぽんの里山 (企)<br>6.20(木) - 9.29(日)            | いわいとしお × 東京都写真美術館<br>光と動きの<br>100かいだてのいえ<br>—19世紀の映像装置と<br>メディアアートをつなぐ (収)<br>7.30(火) - 11.3(日・祝) |   |
| 10        | 現在地のまなざし<br>日本の新進作家<br>vol.21 (企)<br>10.17(木) - 2025.1.19(日) | アレック・ソス<br>部屋についての部屋 (企)<br>10.10(木) - 2025.1.19(日) | 「巨匠が撮った高峰秀子」<br>写真展 (誘)<br>11.9(土) - 12.8(日)  |   |
| 11        |  |   |   |   |
| 12        |  |   |   |   |
| 2025<br>1 |  |   |   |   |
| 2         | 恵比寿映像祭 2025 1.31(金) - 2.16(日)                                |   |   |   |
| 3         | 3階展示室のみ<br>3.23(日)まで   | 鷹野隆大 (収)<br>2.27(木) - 6.8(日)                        | APAアワード2025 (誘)<br>2.22(土) - 3.9(日)<br>ロバート・キャパ (誘)<br>3.15(土) - 5.11(日)                          | 東京都内の美術館・<br>博物館等をお得に見られる<br>「ぐるっとパス」<br>▼詳細はこちら▼ |

(企) 企画展 (収) 収蔵展 (誘) 誘致展



## 4F 図書室

写真集を中心に、展覧会カタログ、写真・映像に関する図書、専門雑誌など国内外の資料を約12万4千冊所蔵しています。また、開催中の展覧会に関する貴重な書籍や出品作家の写真集などをセレクトした展覧会関連書籍コーナーも開設。閲覧を希望する方はどなたでも無料でご利用いただけます(閲覧は図書室内のみ)。



## 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始 ほか

東京都写真美術館ニュース「アイズ2024」118号 □発行日:2024年9月18日 □企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2024 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、消費税込みの価格です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。